

やさしさを、生きる力に。日常エピソード集

「忘れたくない、あの日の言葉たち」



1. やさしさを、笑顔にできる

「今日は暑いので、
おからだ、お気をつけてくださいね」

ご利用者さまの家から帰るとき、
気遣うひと言を、添えるようにしています。



「あなたは本当にやさしいね、
また来るのを待っているよ」

相手を想う気持ちは、
ご利用者さまに、ちゃんと伝わるんです。



いつも、ムスツとした顔のご利用者さま。

入社してまだ1ヶ月のわたしは、

どう接していいか分からずに、

なかなか話しかけられません。



居室で2人になったあるとき、

「若いのに、えらいねえ」

と声をかけてくれました。

（あ、怖い人じゃなかったんだ！）

頑張りを見てくれていたことが、自信になりました。



いつも無口なご利用者さまと、
どうにか仲良くなりたくて、
料理の好みを聞いてみました。

「お食事は、どんな味つけが好きですか？」



好みに合わせたお味噌汁。

ご利用者さまは一口すすると、
にこっと微笑んで「美味しいよ」と。

素敵な笑顔に、わたしも笑顔になりました。



「こんなにやさしい子は、
今まで会ったことないよ」

ご利用者さまが、
一生懸命お話してくれるのを、
楽しく聞いていたとき。

素の自分で接していただけなのに、
こんなに褒められるなんて。

「介護の仕事、向いているかも！」
そう思うきっかけになりました。

2. やさしさは、ちゃんと届く。

スキルも経験も、まだまだなわたし。

有料老人ホームで、はたらき始めてすぐのころは、

「 もっとテキパキできたらなあ 」

そんな風に思うこともありました。



必死で頑張った3ヶ月。

「 今日は手早かったね。

がんばっているじゃないか！」

この3ヶ月間を見守ってくれたこと、

そして、褒めてくれたことに、

胸が熱くなりました。



「 どうしたら楽しんでもらえるかなあ 」

ご利用者さまとの接し方や

会話の1つひとつに、

たくさんの工夫を考えていたころ。



「 これからもがんばり 」

そのひと言で、

ちょっとずつ、一步一步だけど、

成長しているんだと実感できました。



「男がつくった料理は食べない」

というご利用者さまに、

いつか「うめえじゃねえか」と言われたい。

そんな想いで、料理を頑張っていました。



その方のご家族にお会いしたとき、

「君が例の若い子だね」と言われました。

「『男なのに料理がうまいやつがいるんだ』と

父が言っていましたよ」

実は、ご利用者さまは、

いつも綺麗に食べてくれていたんです。

想いは届いていたんだと実感できました。



「この仕事は、やさしいあなた
だからできる仕事ね」

ご利用者さまの排泄介助をしていたとき。

“皮膚トラブルにならないかな”

“綺麗に快適に過ごしてほしいな”

そんなことをいつも考えていました。

やさしいなんて当たり前と思っていたけれど、
自分らしさだと、感じられた言葉でした。

3. やさしさから、もらった元気。

デイサービスのある日。

大きなミスをしてしまい、落ち込むわたし。

明るく振る舞おうとしても、元気が出ません。



「あなたはわたしの娘のよう。

いつもありがとうね」

きっと、励ましてくれたんです。

おかげで、いつもの元気を取り戻せました。



布団のシーツを交換していたら、

「お布団、お手伝いしようか」

ご利用者さまが声をかけてくれました。



少しでも力になりたいと

気にかけてくれたやさしさに、

わたしも誰かの力になりたいと、思えました。



今日は、初めてのデイサービス。

ガチガチに緊張して、頭は真っ白。

何もわからず、棒立ちになってしまいました。



そんなとき、ふと言われた言葉。

「あなたは、今日からニチイの孫だね！」

わたしを受け入れてくれる居場所なんだと

緊張が和らいだ出来事でした。



「 やさしいんだから、
大変でもやめないでね 」

入社してすぐのころ。

何もわからず困っているわたしを見て、
声をかけてくれたやさしいご利用者さま。

やさしさを返せるように、
今日も元気にはたらこう！
そう前を向けました。

4. やさしさから、ありがとうへ。

「 今から、お風呂に入りますね 」

「 お湯加減は、熱くないですか? 」

安心して気持ちよく入浴してほしいから、
いつも言葉をかけています。



綺麗なお洋服に着替えを

済ませたご利用者さま。

「 お世話になったことは、忘れないよ 」

小さな工夫も、

安心につながると実感しました。



有料老人ホームに来て半年。
食事に、入浴に、就寝に。
たのしいことも多いけれど、
大変な仕事も、たくさんあります。



「あんたはいつもがんばっているね！」

ありがたい気持ちと、
元気をくれたご利用者さま。
期待に応えられるように、頑張りたいです。



今日は、訪問介護の最終日。

はじめてお伺いした日からずっと、

ご利用者さまと一緒に、

たくさん、幸せな時間を過ごしてきました。



「あなたがいて、毎日が楽しかったよ」

しっかりと手を握り合って、

さよならをするご利用者さまとわたし。

目には涙があふれていました。



「 あんたのことが一番好き 」

「これをやらせて」「あれもやってほしい」

やりたいことがたくさんある、

元気なご利用者さま。

元気すぎて、たまに疲れてしまうこともあるけど、

「一番好き」なんて言われたら、

なんでも、やってあげたくなってしまうです。

5. やさしさの、その先に。

完璧なケアマネジャーはいません。
一人でできる仕事ありません。
失敗から学べる気づきもあると思い、
チーフのわたしは、
いつもスタッフたちと一緒に考えます。



わたしを介護のスペシャリストに
育ててくれた、
時には厳しく、やさしい先輩たちのように、
わたしもスタッフたちの
成長を見守っていきます。



支店の管理者になったものの、
スタッフさんは、私のお母さんと同世代。
どうやって関わったらいいのか、
わかりませんでした。



“ひとりひとりと話すこと”

“きちんと関係を築くこと”

先輩スタッフが教えてくれました。

“そっか、人と人の関係の基本は同じなんだ”

スタッフの皆さんと、

いい支店にしていきたいです。



やさしさを、一人でも多くの人に
届けるために。

私たちのグループホームを
選んでいただけるということは、
多くの人たちを、介護のやさしさを
満たせるということ。

そう信じて、
みんなで力を合わせて懸命にやってきました。

昨年よりもたくさんの方々に入居してもらえたとき、
心から「やったー!」と思えました。

決められた支援をするだけでなく、
考えながら介護を届けるようになったのは、
自分の担当するご利用者さまができたときでした。

ケアマネジャーさんも、ご家族も、
みんなを巻き込んで、より良い介護を届けていく。

介護のやさしさは、
関わるみんなのやさしさなんだって、気づきました。

